

CASBEE[®] あいち

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安城市三河安城本町 計画	階数	地上10階
建設地	愛知県安城市三河安城本町二丁目6-6-7/6-8-6-9/6-10	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	452 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年5月 予定	評価の実施日	2024年6月6日
敷地面積	3,861 m ²	作成者	上田竜輔
建築面積	1,137 m ²	確認日	2024年6月6日
延床面積	8,115 m ²	確認者	安田 斉嗣



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

標準計算

①参照値	0
②建築物の取組み	15%
③上記+②以外の	15%
④上記+	15%

0 46 92 138 184 230 276 322 368 414 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>91.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	91.3 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	91.3 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)安城市三河安城本町 計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00	3.1
1.2 遮音				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50	3.8
1.2.1 開口部遮音性能			界壁遮音性能はDr-50以上	0.5	3.0	0.50		3.0	0.50	
1.2.2 1 開口部遮音性能				-	3.0	1.00		3.0	0.30	
1.2.2 2 界壁遮音性能				-	3.0	-		3.0	0.30	
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20	
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20	
1.3 吸音				-	3.0	-		3.0	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御				0.3	2.3	0.35	5.0	5.0	1.00	4.9
2.1.1 室温			断熱性能等級5	0.5	3.7	0.50	5.0	5.0	1.00	
2.1.2 1 室温				3.0	3.0	0.63		-	-	
2.1.2 2 外皮性能				3.0	5.0	0.38		5.0	1.00	
2.1.2 3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	-		-	-	
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		-	-	
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30		-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				0.2	3.0	0.25	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1.1 昼光率			昼光率3%超	0.3	4.2	0.30	3.0	3.0	0.30	
3.1.1.1 1 昼光率				3.0	5.0	0.60		3.0	0.50	
3.1.1.2 2 方位別開口				3.0	3.0	-		3.0	0.30	
3.1.1.3 3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20	
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30	
3.2.1 1 昼光制御				5.0	3.0	1.00		3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	1.0	0.15		3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策				0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	3.6
4.1.1 1 化学汚染物質			合板、フローリング等、F☆☆☆☆を利用	0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
4.1.1.1 1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38	
4.2.1 1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.2.1 2 自然換気性能				3.0	3.0	-		3.0	0.33	
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-		-	-	
4.3.1 1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	-		-	-	
4.3.1 2 喫煙の制御				3.0	3.0	-		-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.4	0.40	3.8	3.8	1.00	3.7
1.1.1 1 広さ・収納性			最大通信速度1Gbps以上のサービスに対応した設備を構築	0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60	
1.1.1.1 1 広さ・収納性				3.0	3.0	-		3.0	-	
1.1.1.2 2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-		5.0	1.00	
1.1.1.3 3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	4.0	0.30	2.0	2.0	0.40	
1.2.1 1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
1.2.1.1 1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	-		-	-	
1.2.1.2 2 リフレッシュスペース			パース等を作成し、コンセプトを反映した内装計画を検討	3.0	4.0	1.00		1.0	0.50	
1.2.1.3 3 内装計画				0.3	3.5	0.30		-	-	
1.3 維持管理				3.0	4.0	0.50		-	-	
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計			仕上等を配慮	3.0	3.0	0.50		-	-	
1.3.1 2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	3.0	0.31				3.0
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48				
2.1.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80				
2.1.1.2 2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33				
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数			劣化等級3取得予定		5.0	0.23				
2.2.1.1 1 躯体材料の耐用年数				-	2.0	0.23				
2.2.1.2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.09				
2.2.1.3 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.08				
2.2.1.4 4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	5.0	0.15				
2.2.1.5 5 空調・給排水配管の更新必要間隔			1.汚水(硬質塩化ビニル管)、2.雑排水(硬質塩化ビニル管)、3.給水(水道用ポリエチレン管)	-	2.0	0.23				
2.2.1.6 6 主要設備機器の更新必要間隔				-	2.0	0.23				
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19				
2.4.1 1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20				
2.4.1.1 1 空調・換気設備				3.0	1.0	0.20				
2.4.1.2 2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20				
2.4.1.3 3 電気設備				3.0	3.0	0.20				
2.4.1.4 4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20				
2.4.1.5 5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20				

3 対応性・更新性					0.2	2.8	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	-	2.6	2.6	-	0.50
1 階高のゆとり					-	3.0	-	-	3.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	-	-	2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					1.0	2.8	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	2.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				等級4を超える	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.69	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング					3.0	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	-	-	-	-	-
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング					-	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	2.6
1 水資源保護					0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水					3.0	1.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	3.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68	-	-	-	-
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)					-	4.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
ODP=0かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を採用している。											
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率15%	-	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮					0.3	2.3	0.33	-	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	4.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	-
光害対策がガイドラインチェックリストの一部を満たす。広告物照明を行っていない。											

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)安城市三河安城本町 計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:91.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)安城市三河安城本町 計画

計画上の配慮事項	
総合	有害性が低く、耐用性に優れた建材を用いる計画とし、温熱環境や省エネルギー性に配慮することで、長期的に有効な住環境を得られるよう努めた。
Q1 室内環境	室内環境の向上をめざし、F☆☆☆☆建材を使用した。
Q2 サービス性能	共用部分に、耐用性に配慮した配管仕様、躯体材料を用いる計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に緑地を配置することで敷地内温熱環境の低減に努めた。
LR1 エネルギー	各住戸が外皮に二方向面するよう計画することで有効な換気・通風を確保した。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建材を使用して室内環境の向上に努めた。
LR3 敷地外環境	LCCO2の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。